

たぐり

TAKUSUI
No. 711

1

January, 2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



申歳 (高砂市)

平成28年 年頭挨拶 JF兵庫漁連 通常総会 開催

《今月の海上安全標語》～ 明けましておめでとうございます！～
本年もよろしくお願いいたします。

今年が申年ですね。今年こそ海難事故“^{ゼロ}0”を目指していきましょう！

海の難 今年こそ“去^{サル}る”兵庫の海で では、今年も安全操業で！



兵庫創生に挑む

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうござい
ます。

国内では急速な人口減少・少子高
齢化、世界では地域紛争が激化する
一方で、国境を超えた経済の一体化
が進展しています。内外とも変化の
激しい今、兵庫においても、新たな
発展の枠組みが求められています。

昨秋、本県は、五年間の地域創生
戦略を策定しました。今後五十年で
百万人以上の人口減少が見込まれま
す。少子化と高齢化も年々進行しま
す。その中でも兵庫が活力を保ち、
将来への希望を持てる地域を目指さ
ねばなりません。それだけに、地域
の多様な資源を最大限に活用して、
ふるさと兵庫を愛する人々ととも
に、「安全安心で元気なふるさと兵
庫」を創らねばなりません。

第一は、安全安心の確保。安全こ
そが県民生活と社会経済活動の基で
す。ハード・ソフト両面から防災・
減災対策を進め、危機に強い地域を
創ります。また、医療、福祉の更な
る充実により、安心して暮らし続け
られる体制を整えます。

第二は、多彩な人材が活躍できる

社会づくり。女性、若者、高齢者
障害者の一層の社会参加を促します。
そのためにも、子育て環境の整備や、
個性を伸ばす教育に努め、県民一人
ひとりの自己実現を目指します。

第三は、活力あふれる地域づくり。
科学技術基盤を活かした新産業の創
出、大都市近郊を活かす農林水産業
の確立など、産業の競争力強化に取
り組めます。また、高速道路網の整
備、広域観光圏の形成などにより、
内外との交流の拡大につながります。

未来は、私たちの手で変えられる。
そのため、戦略では、自然増や社
会増対策を行うとともに、人口が減
る中でも実質的な経済成長を実現す
るという目標を掲げました。地域、
地域の持つ多様な資源を活かしつ
つ、兵庫としてのまとまりを發揮す
る「多様性と連携」を基本に、皆さ
んと共に挑みます。「兵庫創生」に
向けて、さあスタートを切りましょ
う。

各地域資源を活かし連携し

めざすは兵庫の新しい展開

CONTENTS

No.711 January. 2016

- 2 新年のご挨拶
- 7 第40回 JF兵庫漁連通常総会
甲南女子大学との消費流通検討会
- 8 第1回 乾のり入札会を開催
- 9 JA農産物直売所にJF明石浦が出店
- 10 大輪田塾だより
海難事故をなくそう
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う
灯浮標は目立って なんぼ



表紙の言葉

「申歳」(高砂市)

今年申歳です。

写真は、高砂市の曾根天満宮にある大絵馬で、今にも動き出しそうな猿が印象的でした。

干支の十二支で9番目にあたる「申」は、草木が十分に伸びきった状態で、身が成熟して香りと味がそなわり、固く殻におおわれていく時期を表していると言われています。

兵庫では、昨年、瀬戸内海を豊かな海にする取組みが実をつけました。

その実が熟れて、確かなものになっていく一年になることを祈念します。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 隆義

新年明けましておめでとうございます。
年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

我々漁業を取り巻く環境は、水産資源の減少や魚価の低迷、漁業者の減少、高齢化等、依然として厳しい状況にあります。

本県の漁業に目を向けますと、内海地区の主幹漁業であるのり養殖は、豊漁であった前年を上回る共販金額で順調なスタートを切りました。西播地区のカキ養殖は種苗確保が困難であったものの、生産はまずまず順調に推移しており、但馬地区の基幹漁業であるカニ漁については、数量は前年を若干下回っておりますが、金額が前年を上回る状態での操業となっております。
また、燃油価格も昨年1月から大きな高騰も無く、1年をとおして順調に値下がりしていることから、少しでも

漁業者の皆様のご経営改善に繋がっていかねばと感じております。

このような中、昨年10月にTPP問題が大筋合意され、漁業を取り巻く情勢が大きく変化いたしました。関税については、水産物の多くが完全撤廃される中、本県の主幹漁業であるのり等の海藻類は15%削減にとどまりました。

しかし、牛肉等の関税引き下げにより、水産物の消費がさらに減少するところが懸念される中、水産食料を安定供給していくため、JFグループでは、政府等に対して緊急に実施すべき取組策への支援を求め、12月には補正予算が閣議決定されました。

食料供給産業である水産業をより競争力のある産業にしていくため、地産地消の推進を通して地魚の鮮魚販売拡大に繋がるよう全力を尽くして取り組んでまいります。

また、本県漁業にとって重要施策の一つであった「豊かな漁場再生」にかかる法整備は、昨年9月25日に『瀬戸内海環境保全特別措置法の改正』が決議されました。今後は、豊穡の海を取り戻し、漁業者が安心して漁業経営を行うため、10年、20年後の将来を見据えた対策をたて、国・地方と漁業者が一体となって取り組んでいく必要があります。

さらに、水産日本の復活に向けたJFグループの新運動方針（2015―2019）として、兵庫県でも、浜自らが将来の自分たちのあるべき姿、取り組むべき課題を考える浜の活力再生プランの展開等、各系統事業の重点取組事項を盛り込んだ「兵庫県版アクションプラン」を策定し実践に取り組んでおり、本会としても、本県の漁業が将来に亘って安定的かつ継続的に維持・発展していけるよう、全事業部門において積極的な改革を実行して参ります。

最後になりますが、本県の漁業が活気を取り戻して、希望の持てるスタートの年となりますとともに、皆様のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 峰人

新年あけましておめでとうござい
す。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆
様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に格別のご高
配をいただいておりますことにあらため
て厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、我が国経済は安倍
内閣の経済財政政策の推進により、雇用・
所得環境が改善し、原油価格の低下等に
より交易条件が改善する中で、緩やかな
回復基調となる一方、中国を始めとする
新興国経済の景気減速の影響は世界中か
ら注目を集めました。

また、10月にはTPP交渉が大筋合意
に至り、今後水産業界全体への多大なる
影響が懸念されますが、強い水産業づく
りに向け予算措置を求め、承認されたと
ころであります。そして瀬戸内では、9
月に念願であった「瀬戸内海環境保全特
別措置法(瀬戸内法)」が改正され、今後、
豊かで美しい里海を目指した種々の施策
が実行されることが期待されます。

本会は、新中期経営計画の初年度にあ
たり、「浜の暮らしを守る信頼の金融」
をさらに具現化すべく、「原点への回帰」
と「経営力強化」を経営の基本方針に事
業展開を行ってまいります。

また、全国段階の「広域信漁連構想」
と呼応しつつ、和歌山県信漁連との合併
について実践的な協議組織として設置し

た「統合信漁連推進委員
会」において策定され、
理事会において承認いた
だきました「統合基本計
画」について、本会の最
重要課題として会員の皆
様に説明を行っていくこ
ととしております。



新年のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事

川越 一男

新年明けましておめでとうございま
す。今年第十二支の第九番目の申年です
が、我々の人間世界には、世渡りの上手
な人もいれば下手な人も沢山います。そ
こで、申年に因んで一言申し上げます、
この世には、あえて「見えるものも見ず、
言いたいことも言わず、聞こえていなが
ら聞こえないフリをする」ことも、場合
によっては必要なきもあるようです。

昨年は世界的には何と言ってもIS
(イスラム国)の問題が大きく取り沙汰
された一年でした。非情極まりないテロ
行為が各国で際限なく発生しているこ
とから、ついに米英仏口がこれの殲滅作
戦にうって出ようとしています。アフリ
カを中心としたエボラ出血熱も一時は
世界を騒然とさせました。国内において
は、依然として普天間基地の移設問題や
尖閣諸島の領有権問題についての解決
策が見出されていない中で、大きくク
ローズアップされたのが安保法案の審
議入りとその成立でした。原発の再稼動
問題や新たに加わってきたTPP問題

貯金業務においては、「浜の窓口強化」
のための具体的手法として、一定の期間
をかけ、利用者の皆様方に満足のいただ
ける新事業推進体制の構築に取り組みこ
ととしており、融資業務では、本来本会
が持ち合わせていた「指導金融」として
の側面を発揮すべく漁協・漁業者・加工
業者へのアプローチ強化に努めてまいり
ます。

等々数え上げればきりが
ないほど難題が山積して
おり、これらのより良い
道筋を見定めるには、極
めて精巧な羅針盤が必要
とされているところであ
ります。

さて、昨年の本県水産業をふり返つて
みますと、ノリ養殖については定期的な
降雨による栄養塩補給と終始堅調な相
場、それに生産者の皆さんの旺盛な生産
努力とが相俟って、何とか3年前の平成
23年度漁期に匹敵する成績を収めるこ
とができましたが、やはり「大なり小な
り色落ち」は毎年必ずある」という心配事
は依然払拭できない状況下にあります。

イカナゴ・チリメンの船曳網漁業をみま
しても、地域的な格差こそあれ、全体的
には昨年のみならずここ数年厳しい状
況が続いています。また、唯一ここ数年
非常に好調であった西播地域のカキ養
殖が、成長不良や種ガキの問題等で大変
深刻な状況に陥っているのも事実であ
ります。このような中で但馬のズワイガ
二漁については、全体的には過去最高の
水揚げ金額になったとはいえ、中・小型船
にとつて何よりも辛いことは時化で沖
に出られないことでもあります。勿論、カ
ニかご漁船や沿岸つり漁船等も同様で
はありますが、何かしらそういった環境

最後になりますが、今後とも役職員一
同、水産系統組織の一員としての自覚を
持ち、系統金融機関のとしての機能発揮
に取り組んでいく所存でございます。
本年も、皆様のご支援・ご協力を賜り
ますようお願い申し上げます。新年のご
挨拶とさせていただきます。

このように、地球規模的に環境が大き
く変化してきている中で、私どもの漁業
共済もそういったことに敏感に対応し
ていかねばなりません。その一例とし
て、すでに始まっております27年度ノリ
漁期から、ノリ特定養殖共済の補償範囲
に従来の本張り期間のみならず育苗期
間も対象になったことは、既に関係者に
とりましてはご承知の通りであります。

そういったことで、災害対策としての
「漁業共済」、そして経営安定対策として
の「積立ぶらす」については、漁業者の
皆さんにとつて必ずや1つの大きな安
心感に繋がっているものと考えており
ますので、どうか今後とも、当該事業に
対する倍旧のご理解とご協力を賜りま
すようお願い申し上げます。新年のご挨拶
といたします。

拓水711号 (2016年1月) 4

新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長

小林 孝司

の魅力ある水産業を目指して様々な施



新年あけましておめでとうござい
す。皆様には、清々しく新春をお迎
えのことと心からお喜び申し上げます。
新しい年が希望に満ちた一年となり
ますよう、心からご祈念申し上げます。
昨年は、国の内外で様々な動きがあ
った一年でした。国内においては、こ
れまでの本県水産関係者の長年にわた
る取組が身を結び、宿願であった瀬戸
内海環境保全特別措置法改正法が成
立し、人と自然が共生できる海、里
海への再生に向けた枠組みが整いま
す。今後、関係機関と連携して湾
灘ごとの実情に応じた県計画を策定
し、瀬戸内海を豊かで美しい里海
として再生するため、海域環境の保
全や回復に向けて全力を挙げていき
たいと考えています。

また、国際的な経済の動きとして、
アジア・太平洋経済圏の構築を目的
としたTPPが大筋合意されたことは、
今後の農林水産業にとって大きな転
換点になると考えられます。国にお
いては、このTPPがアベノミクスの「
成長戦略の切り札」として位置づけ
られ、その対策に予算措置が講じら
れるとありますが、水産業にとつて
は、安価な畜産物の輸入増加等によ
る水産物の価格下落や消費の減少等
が強く懸念されており、競争力の強
化や水産物の消費拡大など、中長期
的な視点に基づいた取組が重要とな
ってきます。

この様に農林水産業をめぐる社会情
勢が大きく変化の中、県では「安全
安心で元氣な兵庫」の実現に向け、
地域創生を県政の基本施策に位置づ
け、兵庫県地域創生戦略を策定いたし
ました。また、県施策の総合的な指
針を示す「ひょうご農林水産ビジョ
ン2025」の策定作業を進めており、
兵庫の強み

を活かした積極的な「攻め」の農
林水産業を目指し、各地域の特性
に応じた施策を重点的に実施する
こととしています。漁業経営の多角
化や基礎の強化、所得の向上を
図り、本県ならではの魅力ある水
産業を目指して様々な施



新年のご挨拶

兵庫県立水産技術センター
所長 近藤 敬三

新年明けましておめでとうござ
います。皆様には気分新たに清々し
い新年をお迎えのことと心からお喜
び申し上げます。昨年は、瀬戸内海
ではノリ養殖が平年を上回るよう
な豊作となり、大変喜ばしい結果と
なりました。しかし、瀬戸内海の貧
乏塩濃度に見極めながら生産しな
ければなりません。さらには、この
貧乏塩化は、底びき網漁の不振に
象徴されるように、漁船漁業にお
ける漁獲量減少の主な原因であると
考えられています。

この貧乏塩化や藻場・干潟の消失等
の様々な課題を解決するために、漁
業者が要望していた法律の整備に
向けた活動が実を結び、『瀬戸内
海環境保全特別措置法』が昨年10
月に改正・施行されました。この
改正は、瀬戸内海を真に『豊かな
海』として再生させるためのもので
あり、漁業者の粘り強いご努力によ
って実現しました。水産技術セン
ターでは、この法律改正が求めている
栄養塩と漁獲量の関係を解明する
研究を始め、イカナゴ・シラスの漁
況予測等の資源管理技術や、川砂を
用いた漁場造成等の資源増大技術、
ノリやカキ・アサリの優良品種開
発等の試験研究を積極的に進めたい
と考えており、今年はその出発の年
であると感じています。日本海では
調査船「たじま」を活用した

策を積極的に展開してまいります。
今後ともご理解とご協力をお願い申
上げます。

新たな年の始まりとともに、本県水
産業が益々発展し、未来に向かって力
強く前進されますこと、新しい年も
平穏で安全な操業が続き、豊かな海
の幸に恵まれますことを心より祈念
いたしまして、新年のご挨拶といた
します。

試験操業や、計量魚探で資源量を定量的に把握する新技術によって、ズワイイカやハタハタ、ホタルイカやソデイカの漁況を予測する等、漁況情報の迅速な発信に努めます。さらに、漁期以外のカニ等の混獲を防止するための漁具改良等の資源管理技術の開発や、漁獲物の高鮮度流通

技術の開発等に努めてまいります。
兵庫県水産業の発展のため、最新情報や新技術を提供できる水産技術セン
ターを目指して努力してまいります。
引き続きご支援とご協力を賜ります
ようお願い申し上げます。
兵庫の海が豊かな恵みをもたらすと
ともに、皆さまにとって実り多い年
となりますよう祈念申し上げて、新
年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長



坪田 勝幸

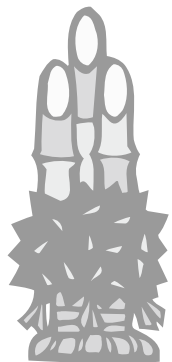
あけましておめでとうござい
ます。皆様には、新しい年の門出を
すがすがしい気持ちでお迎えのこと
と心からお慶び申し上げます。

昨年は振り返ってみますと、瀬戸
内海環境保全特別措置法の改正が
ありましました。皆様の熱意とご苦
労により達成することができました。
今後は実践のステージに入ってい
くわけですが、豊かな海の再生・創
造に向けて皆様とともに取り組んで
参りたいと思います。

また、漁港漁場整備長期計画の改
定時期がやってきました。国におい
ては平成28年度中の策定に向けた検
討が進められ、水産物の流通構造改
革、海域の生産力向上、漁港・漁村
の強靱化、地方創生を重点とした構
成と聞き及んでいます。

全国を見ますと、鬼怒川の堤防決壊
による水害など、従来の想定と異な
る気象現象が新たに生じており、今
後とも強い気象現象が頻りに進んで
まいりたいと思います。
近い将来発生が懸念される南海トラフ
地震に対しては、最大クラスの津波
への備えとして、昨年6月に「津波防
災インフラ整備計画」を策定し、水門
や防波堤の整備、陸上の自動化など
の対策を進めています。日本海沿岸
の津波対策についても調査・検討を
進めてまいります。
漁港施設については、漁業活動が安
全で効率的に行えるよう施設の機能
を良好な状態に保つことも必要です。
施設の老

る被害が発生しませんでした。しかし、
全国を見ますと、鬼怒川の堤防決壊
による水害など、従来の想定と異な
る気象現象が頻りに進んでまいり
たいと思います。
近い将来発生が懸念される南海トラフ
地震に対しては、最大クラスの津波
への備えとして、昨年6月に「津波防
災インフラ整備計画」を策定し、水門
や防波堤の整備、陸上の自動化など
の対策を進めています。日本海沿岸
の津波対策についても調査・検討を
進めてまいります。
漁港施設については、漁業活動が安
全で効率的に行えるよう施設の機能
を良好な状態に保つことも必要です。
施設の老



朽化が進み更新の時期を迎えていますので、計画的に修繕や更新に努め施設の長寿命化や更新コストの縮減に積極的に取り組んでまいります。

豊かな海の再生への取り組みでは、漁港自体の魚を育てる機能に着目し4年間にわたって生物やその生息環境等について調査してきました。H E Pと呼ばれるハビタット評価手法により、環境と生物、餌生物と捕食者の関係を数値化し、生物多様性の現状を明らかにすることとして



年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長

岸

宏

新年あけましておめでとうございませう。年頭にあたり、全国の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、振り返りますれば昨年は、「水産日本の復活」に向け、J Fグループを挙げて「浜の活力再生プラン」の策定・実践に取り組みで参りました。昨年11月末現在で481地区のプランが承認されており、これほどまで全国で一致して行われた取り組みは他に類のないものと、多くの関係者から評価をいただいております。

「プライドフェイスプロジェクト」についてもマスメディアに多く登場するとともに、有名流通、小売店でもフェアが開催されるなど、消費者にも一定程度の認知を得ることができました。また、本会が、J Fグループ初の海外アンテナショップとしてシンガポールに開店した「J F K A N D A W A D A L T S U M I」において、現地の方々に対象に毎月のようにセミナー、フェアを開催し、国産水産物の優れた品質をアピールすることで、国産水産物普及拡大の一翼を担うことができました。

一方で、昨年10月5日にT P P交渉は

おり、今後の漁港整備に活用して行きたいと考えております。

浜の活力再生プランの目標である漁家の所得向上に向けた取組みでは、漁船漁業やノリ養殖漁業の経営安定化・効率化に向けた漁業構造改善施設の設備、全自動ノリ乾燥機の整備などを円滑に進めるため、国の補助事業を最大限獲得し、支援に努めてまいります。

県の農林水産関係では、現在、「ひょう農林水産ビジョン2025」へ改定

大筋合意に至り、漁業補助金の国の政策決定権は維持されたものの、関税についてはノリ、コンブ等の海藻類を除き全て撤廃という厳しい結果となりました。さらには、我々にとつては、畜産物関税が大幅に引き下げられることで、魚から



全国水産物協同組合連合会
代表理事会長

3か年計画最終年度に向けて

鎌田 光夫

明けましておめでとうございませう。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめにJ F役員、関係者の皆様には、日頃からJ F共済の普及推進活動に熱心にお取り組みいただき心よりお礼を申し上げます。

さて、J F共済を取り巻く情勢は、このところの主要魚種における漁獲量の減少と長期にわたる魚価安、原発事故による風評被害、また大筋で合意したT P Pへの対応等、依然として深刻な課題が山積んでいます。

こうした厳しい環境ではあります。私たちに海に生き、浜に生活する組合員・地域住民の「暮らしの保障」に万全を期すことを通じて、美しい海と漁業を

作業を進めており、兵庫らしさを最大限に発揮し、次代に向けた積極的な攻めの農林水産業を展開して参ります。

取り巻く環境の急速な変化に対しては、みなさまと一緒に乗り越えて行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、本年が皆様にとつてさらなる飛躍の年となりますように祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

肉類への消費のシフトによる水産物消費の減少や価格下落が懸念されるところであります。

現在、各浜では漁業者が血の滲むような改革をしております。この尊い努力がT P Pにより水泡に帰すことにならないようJ Fグループでは、強力な支援策を求める活動を関係要路に行っております。その結果、11月25日に決定された政府大

守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある漁村・地域づくりに貢献する使命と役割があります。

このため、J F共済では平成26年度を初年度とするJ F共済3か年計画

に掲げた、①組合員等利用者ニーズに対応した保障提供、②東日本大震災被災J Fの復興支援、③万全な共済実施体制の確立、④元気で活力のある漁村・地域づくりの支援、といった主要施策を着実に実行し、J F共済事業の健全性強化をはかることとしています。

また、基幹事業種目であるチョコーについては保有契約量の減少傾向に歯止めをかけることを目的として、共済事業量目標を設定しこれを実践することにより、継続的かつ安定的な事業基盤を確立し、J F共済事業の健全性強化を図っていくこととしています。

平成28年度は3か年計画の最終年度ですが、推進本部を中心にJ Fと一体とな

網に、「担い手へのリース方式による漁船導入」、「産地の施設の再編整備」、「漁船漁業の構造改革」、「漁業経営セーフティネット構築事業の運用改善」等の取り組みが盛り込まれ、補正予算等での実現に取り組んでいきます。

T P Pをはじめ震災復興など厳しい状況は続きますが、「ベンチをチャンス」に常に念頭に置き、意欲ある漁業者が将来に亘って希望を持って経営に取り組んでいけるよう今後も活動をしていく所存であります。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましてはこの難局を乗り越えていくために、これまで以上に英知と総力を結集していただき、浜プランの完遂に向け、引き続きのご理解・ご協力を頂きたいと思っております。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様のお操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

り、全戸訪問を基調とする保障点検活動とチョコーの純新規契約の加入促進運動をすすめ、同計画に掲げた目標の必達に向けて積極的に取り組んでまいりました。

いっぽう、J F共水連では平成24年度から3か年にわたる増資計画を実行し、非常に厳しい事業環境にもかかわらず、38億円を超える増資のお引受をいただき、さらには、各準備金の充実強化を行い、90.0%を超えるソルベンシー・マージン比率を確保することができました。

加えて、一昨年の7月からJ F系統方針として、2年間限定で行っている漁業者年金の「一括払制度」の選択状況は、J Fにおけるきめ細かな個別ご案内が奏功し対象者の約58%（27・10末）の方が選択されています。併せて皆様方のご理解とご尽力に、厚くお礼申し上げます。

今後とも一層の経営の健全性・信頼性の確保に努め、組合員・地域住民の皆様への負担に配慮してまいります。引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



第40回 通常総会 開催される

JF兵庫漁連

12月8日(火)、明石市内のホテルにおいて、JF兵庫漁連の第40回通常総会が、県水産課 小林 孝司課長、農林中央金庫 大阪支店 戸高 聖樹支店長をはじめ、県下JF組合長並びに関係団体から多数の出席者を迎え開催されました。

開会にあたり、山田会長が「T P P問題を含め、漁業を取り巻く環境が年々厳しくなっていくなか、浜の活力を取り戻し、強い漁協、新しい兵庫の漁業を作っていきたい。また、悲願であった瀬戸内法の改正を契機に、かつての豊かな海の再生に、県漁連・漁業者が一丸となって取り組んでいきたい」と挨拶をされ、続いて来賓として、兵庫県 井戸 敏三知事(小林課長代読)、戸高支店長から祝辞がありました。

40期の事業実績は、ノリ養殖・カキ養殖が順調に推移したことから、購買事業・販売事業のほとんどで計画を上回り、事業総取扱高244億4千1百万円、事業利益1億8千2百万円(計画対比6千6百万円増)、経常利益1億4

千6百万円(計画対比4千9百万円増)となりました。任期満了に伴う役員選任も行われ、現役員全員の再任が決まり、事業報告など全議案原案通り承認されました。また、子会社である(株)ひょうごぎょれん販売については、平成26年1月に販売力強化策として、全株式を取得した(株)東海屋に事業を移管したため、平成27年11月18日開催の定時総会において同日付けで解散が決議されたことの報告がありました。最後に田沼副会長が「20年先まで安心して漁が出来るよう、役員一同、頑張っていく」と挨拶され閉会しました。



挨拶に立つ山田会長

甲南女子大学との消費流通検討会を開催

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(大西正起会長・JF伊保)は、近年、県内の大学生協へ「LOVE SEA 丼」の食材を提供するとともに、各大学の学生を対象に消費流通検討会を開催するなど魚食普及活動を積極的に展開しています。

11月16日(月)、甲南女子大学(神戸市)で行った消費流通検討会では、同会部員や関係者ら12名が学生ら約20名を対象に魚料理教室を開催しました。同大学では後日、LOVE SEA 丼として八毛が提供されることになっており、食堂の調理担当者も交流の一環で参加しました。

大西会長の「魚や海について、いろいろ知ってもらいたい」との挨拶から始まり、学生らはまず「アカシタのソテー風味パン粉がけ」と「カキとキノコのソテー」の調理に挑戦しました。自宅から通学する学生が多く、包丁を持つ機会があまり無いという皆さんでしたが、調理をすることが楽しかったようで、また挑戦したいといった声が聞こえました。

他に、釜揚げシラス丼の盛り付けも行い、事務局が用意した味噌汁と一緒に試食会を行いました。料理を楽しみながら、事務局から瀬戸内海の魚のことや、漁業について説明があり、色落ちしたノリの写真には、その違いに驚きの声が上がりました。その後、学生らから、殻つきカキの美味しい食べ方や、魚の選び方などの質問が沢山寄せられ、部員らが丁寧に答えていました。



出来上がった釜揚げシラス丼



摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会の活動はさらに広がっていきます

第1回乾のり入札会を開催

JF兵庫漁連のり海藻事業本部

枚数は前年に比べ約2、600万枚減の2、318万枚となりました。一方、栄養塩は平年より高めに推移しており、ノリの成長も概ね順調に進んでいることから今後の生産に期待が持てます。共販の開始にあたり、JF兵庫漁連 突々 淳参事は「生産者は活気があり、生産意欲も高く、次回（第2回）には各浜のノリが出揃う予定。今後の兵庫に期待したいをしてもらいたい」と挨拶。また、兵庫海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長（松谷海苔株式会社）は「全国的にノリ生産が出遅れているなか、兵庫には潤沢で安定した生産を期待したい」と挨拶されました。

今漁期の入札会から、共販会場におけるWiFi環境を整備し、ノリ商社の皆さんへ快適な環境を提供するとともに、臨時を含み全15回の共販開催を予定しています。（最終共販日は5月10日（火））

なお、毎年宮内庁へ献上しているノリの審査会が16日（水）、水産会館で行われました。色・艶・味などの項目を10点満点で評価し、審査の結果、JF林崎のノリが選ばれ、21日（月）にJF兵庫漁連 山田 隆義会長が宮内庁に持参献上しました。

（第1回乾のり入札会：結果）

| | |
|---------|-----------|
| 共 販 枚 数 | 2,318万枚 |
| 共 販 金 額 | 3億2,291万円 |
| 平 均 単 価 | 13円90銭 |
| 最 高 値 | 55円00銭 |



JF兵庫漁連が開催する今漁期の乾のり入札会（共販）が始まりました。JF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）において12月12日（土）に臨時共販、18日（金）には第1回共販を開催し、両日とも全国から買い付けに來られた商社やその関係者らで、共販会場は活気に包まれました。

第1回共販には、参加42商社の約110人が、見本のノリを手に、次々に品定めをしていく姿が見受けられました。今漁期は、高水温の影響でノリ網の張込み作業完了に約1〜2週間の遅れが発生したことや、摘採時の強風などの影響があったため、共販



早朝から多くの方が詰めかけました



兵庫のりに期待を寄せる松谷理事長

JA農産物直売所に JF明石浦が出店 ～常設の鮮魚コーナーが スタート～

(一財)兵庫県水産振興基金



JA兵庫南は6次産業拠点施設「にじいろふあ〜みん」(加古郡稲美町)を開設し、11月19日(木)にオープンセレモニーが行われました。この施設にはJF明石浦(戒本 裕明組合長)が常設鮮魚コーナーを設けており、オープン初日には多くの来店者で賑わいました。

オープン当日はセレモニー終了後に来場者が押し寄せ、入店規制がかかるとの盛況ぶり。売り場面積が約1,000平方メートルという近畿最大規模のフロアには地元産の新鮮な野菜、肉、農産物加工品などが並び一角に、JF明石浦の鮮魚コーナーがあります。明石浦で水揚げされたタイ・ヒラメ・マダコなどのほか、ノリやチリメンなど充実し



近くに來られた際には、是非寄ってみて下さい!

た品揃えで、お客の要望に合わせ三枚卸しなどの調理も可能です。同コーナーは、JAより依頼を受けた同JFが出店し、仲卸会社「魚利大東商店」(明石市)と共同で運営しています。戒本組合長は「地域の皆さんに旬の明石の魚を届けたい。これを機に、地元の魚の良さを知って頂ければ」と期待を寄せられています。



「にじいろふあ〜みん」

住所：加古郡稲美町六分一 1179-224

約1万㎡の敷地に平屋の農産物直売所(売場面積966㎡)。約500人の生産者が出荷し、地元の畜産農家や漁協から仕入れる精肉・鮮魚コーナーや豆腐工房、地酒・特産品コーナーのほか、ドライフーズ工房や料理教室などを開くキッチンスタジオが入る研修棟(床面積726㎡)を備える。直売所南側の隣接地約1万2千㎡には、農業体験ができる貸農園や研修農地を来年4月に開設予定。

大輪田塾だより

在塾生・修了生のほか関係者16名が参加しました。

講義では、ハカリに関する法規や、ハカリの仕組みなどを学んだほか、実際に水産加工工場をはじめとする現場で使用されている商品の紹介、工場での製造現場を見ることも出来ました。また、同社が長崎大学などと共同開発した、魚の脂の乗り具合を測定する機器「フィッシュアナライザー」について意見交換がありました。

塾生からは、普段、何気なく使用しているハカリに関して見方が変わったといった感想のほか、フィッシュアナライザーの感想や、新たな商品開発への提案など多くの意見が寄せられ、有意義な研修となりました。



大和製衡株式会社 (明石市)で研修

大輪田塾12月講座は、8日(火)に現地研修を行いました。

水産業界をはじめ、自動車業界など様々な分野で使用されているハカリを製造する大和製衡(株)

(明石市)で「水産業におけるハカリについて」を開講し、



質疑応答に入る前の意見交換の様子



塾生の関心も高かったです

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着よう!

もしもの時に、あなたの命を守るライフジャケット! 拓水では、今年もライフジャケット着用推進をPRしていきます。是非、着用してください!



固定式ライフジャケット

モデル: JF兵庫漁連 指導部 樋口 和宏さん

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。
※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください

是非、着用を!



モデル: JF兵庫信漁連 営業部業務課 水橋 寛子さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

第33回兵庫県JA大会 ひょうごの農と食、そして地域のために 新時代を拓くプロジェクトを決議

JAグループ兵庫

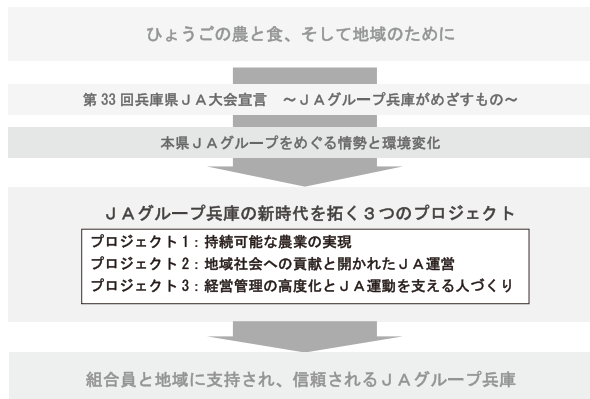
JAグループ兵庫は、第33回兵庫県JA大会を平成27年11月16日(月)、「ひょうごの農と食、そして地域のために」をメイン・テーマに開催し、「JAグループ兵庫の新時代を拓くプロジェクト」を決議しました。

政府による農協改革、TPPをはじめとするグローバル리즘、新自由主義的な政策に、JAグループがこれからどう対応していくかは、非常に重要な課題です。農業者の所得向上、農業生産の増大、地域社会の活性化、組合員組織のあり方、JA運営のあり方、総合事業のあり方、連合会のあり方など、非常に困難な課題が山積しています。

そこで、今回の大会では、本県JAグループの新時代を拓くため、今後3年間に共通して取り組むべき重点事項として、①持続可能な農業の実現、②地域社会への貢献と開かれたJA運営、③経営管理の高度化とJA運動を支える人づくり、の3つのプロジェクトを決議しました。

今後、「農」を基軸として、消費者に選ばれる安全で安心な「食」を提供し、「地域」に必要なとされる事業を総合的に展開することで、組合員や地域の人たちからJAグループに対する確固たる支持、信頼を得ることを目指します。

第33回兵庫県JA大会決議



<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

監事業務の基本や監査のポイントを学ぶ

～第18回「監事研修会」を開催～

兵庫県生協連では、11月5日(木)、兵庫県民会館にて兵庫県・兵庫県生協連共催による「第18回監事研修会」を開催。生協運営の健全な発展に果たすべき監事の役割と監査の実務のあり方を学び、今後も健全な生協運営を実施していただくための研修会に、15生協から29名が参加しました。

はじめに、兵庫県企画県民部消費生活課 石田千春 主幹より「監事・監事会の役割と指導検査で見受けられる問題点」と題して、監事の役割や指導検査で見受けられる問題点について。また、MMコンサルティング代表 三宅 充 氏より、「監査業務を遂行するにあたって(改正生協法後の監査業務)」と題して監事業務の基本や監査のポイントなどについてご講演いただきました。分野別グループディスカッションでの交流の場もあり、参加した役員・監事からは「経営一辺倒の監査にならないよう、協同組合理念を大切にす監査も必要だと思う」「県の指導検査の指摘事項の内容については他生協の事例でも参考になる点がいくつもあると思った」などの感想が寄せられました。

▶監査業務の大切なポイントを話されました



◀分野別グループディスカッションで交流

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

縁起食のこと

◆「五穀」とは人が常食する米・麦・豆など穀類の総称である。《小豆》は豆の代表格で赤色の小さな豆だが、目出度さの引立て役として重用される。煮汁で染めた強飯が祝意を表し、女の子が成長して初潮を見た時、赤飯を炊き家庭内で「内祝い」とした。出産時も赤飯で祝い、重箱に詰めて親戚や近所へ配った。胡麻塩を祝儀袋に入れ、難を転ずるといふ縁起からナンテンの葉を添えた。結婚披露宴での祝膳に、縁を結ぶという意から人参と大根を「紅白千代結び」としたり、吸い物には「結び昆布」を入れる。「亀田大根」や「松葉柚子」も鶴亀や松竹梅に見立てた調理方法で、全てが縁起に繋がる祝意を表明している。

◆赤児が誕生後、百日を経て「お食い初め」を行う。生まれて百日目で食べられる筈もないが、食に恵まれるよう儀式としての真似事をする。佐用町に住む孫の縁起食に付き合ったが、膳に小石を添えて丈夫な歯が持てるよう祈る。孫は初めて口にすると小石を添えて仕舞うが、嫌いというより口にしたら事も無いため用心だろ。小石を口に入れられ泣きもせず、怒った声を出した。祝い膳には、尾頭付きの鯛や赤飯が並んでいたが、当人には全くの絵に書いた餅である。母乳を貰って機嫌良く寝入った可愛い顔を見ながら、お相伴をした。

◆神々に献じる食饌は、祭典によって多少品目が違うけれど、概ね次のものである。米・酒・餅、海川の魚・野鳥・蔬菜と塩・水、鯉節・するめ・熨斗鮑・昆布・干し海鼠(なまこ)・干し柿・搗ち栗。正に「百味の飲食物」を高盛りにする。初収穫や初漁で獲れた品々を、感謝を込めて献上するのである。これらは神饌と称し、神からのお下がりとして煮炊きし「直会(なおらえ)」として有り難く頂戴する。此れらは目出度い食材として扱って、正月の「おせち料理」に代表される縁起食へ繋がっている。それぞれ由来や縁起があり、疎かに出来ぬもの許りである。

◆蒸し米と水と微生物の力を借りて発酵させれば《酒》になる。古代の人はこの不思議な発酵作用に驚いて、これは神様の技だと信じていた。何よりも酔うという感覚は超神秘的だ。今日でも酒造りを神事として行っている醸造所もあり、祭事や冠婚葬祭、祝いや浄めの儀礼に欠かせない重要なものである。《茶》は、当初は薬として日本へ入り、庶民の嗜好品となったが、朝茶を飲めば一日の難を逃れ「朝茶は三里行っても飲め」ともいう。ビタミンCの効果だろ。『茶柱が立つと縁起がいい』というが、茶所・静岡で茶商人の智恵が生んだ名コピーだという説がある。何処かバレンタインのチョコプレートに似ている。

灯浮標は目立って なんぼ!

JF兵庫漁連 指導部

ノリ養殖が行われるこの時期、ノリ網への船舶の乗揚げ事故は後を絶ちません。

神戸海上保安部航行安全課によりますと、淡路島を含む県南部の沿岸部では、ノリ養殖が開始した9月から12月までの間に既に9隻の乗揚げ事故が発生しています。これらは、ノリ網を明示するブイを見失い誤って進入するケースが認められることから、我々漁業者サイドも可能な限りの進入防止対策を講じる必要があります。

そこで、この度、同保安部のアドバイスを基に、JF富島(田中 孝組合長)は、ノリ養殖漁場の灯浮標に看板(JF兵庫漁連指導部製作)を設置し、注意喚起を行う取組みを実施したことを受け、先日、同保安部徳永部長が現地確認を行いました。

徳永部長からは、「海上では黄色よりもオレンジ色(ライフジャケットの色)の方が目立つ」、「近隣漁協でも導入されている、俵型のフロート(KPフロート、オレンジ色)二段重ねがよく目立つ」とのコメントを頂きましたので、今後、各JFにおいても同様の安全対策を取り組まれますようお願いいたします。

事故の発生件数を減らすのはもちろんのこと、被害の度合いを軽減させることも「安全対策」となります。小さな一歩かも知れませんが、この一歩で事故を防ぐことができるかもしれません。

なお、オレンジ色の塗料やフロートのご用命はJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)まで



オレンジ色で視認性UP!



フロートを重ねると効果的!